



# Sun Blade™ X6440 サーバーモジュール設置マニュアル

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

部品番号 820-5306-10、改訂 A  
2008 年 6 月

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている、本製品で使用されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴ、Java, Solaris, Sun Blade, docs.sun.com, Sun Fire, および Solaris ロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Windows は、Microsoft Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴは、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

---

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. détient les droits de propriété intellectuelle relatifs à la technologie incorporée dans le produit qui est décrit dans ce document. En particulier, et ce sans limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains listés à l'adresse <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets supplémentaires ou les applications de brevet en attente aux Etats - Unis et dans les autres pays.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris, Sun Blade, docs.sun.com, Sun Fire et le logo Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Microsoft sont est marques de fabrique ou des marques déposées de Microsoft Corporation ou de sa filiale aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Windows est une marque de fabrique ou une marques déposée de Microsoft Corporation ou de sa filiale aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Le logo Adobe est une marque déposée de Adobe Systems, Incorporated.

L'utilisation de pieces detachées ou d'unités centrales de remplacement est limitée aux réparations ou a l'échange standard d'unités centrales pour les produits exportés, conformément a la législation americaine en matière d'exportation. Sauf autorisation par les autorités des Etats-Unis, l'utilisation d'unités centrales pour procéder a des mises a jour de produits est rigoureusement interdite.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに vii

1. サーバーハードウェアの設置 1
  - 開始前のご注意 2
    - 本書の用語 2
  - 設置の概要 3
  - サーバーモジュールの設置 4
    - コンパクトフラッシュカードの取り付け 4
      - ▼ CFカードを取り付ける 4
    - サーバーモジュールの挿入 5
      - ▼ サーバーモジュールを挿入する 5
    - サーバーをスタンバイ電源モードにする 7
  - サーバーモジュールの電源投入 9
    - ▼ サーバーモジュールの電源を投入する 9
  - サーバーモジュールの電源の切断 9
    - ▼ サーバーモジュールの電源を切断する 9
  - サーバーモジュールのブート 9
  - コンパクトフラッシュカードの取り外し 10
    - ▼ CFカードを取り外す 10

2.	サーバーソフトウェアのセットアップ	13
	Integrated Lights Out Manager	13
	サービスプロセッサについて	14
	事前設定された管理者アカウントの概要	14
	ILOM への接続の概要	15
	サーバーモジュール ILOM への接続	16
	オプション 1: シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続	16
	▼ シャーシのシリアルコネクタを使用して ILOM に接続する	16
	オプション 2: ドングルケーブルによる ILOM への接続	20
	▼ ドングルケーブルを使用して ILOM に接続する	21
	オプション 3: Ethernet ポートによる ILOM への接続	21
	ILOM へのログインとログアウト	21
	▼ ILOM CLI にログインおよびログアウトする	21
	▼ ILOM Web GUI にログインおよびログアウトする	22
	ILOM IP アドレスの設定	24
	▼ ILOM IP アドレスを表示する	24
	▼ BIOS セットアップユーティリティを使用して ILOM IP アドレスを設定する	24
	▼ DHCP を使用して ILOM IP アドレスを設定する	26
	▼ CLI を使用して ILOM IP アドレスを設定する	27
	Sun Blade X6440 サーバーモジュールの ILOM のカスタマイズ	30
	プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ	30
3.	プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステム	31
	開始前のご注意	32
	インストールのためのワークシート	32
	プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定	36
	▼ プリインストールされている Solaris 10 OS を設定する	36
	▼ コンソールの出力のビデオポートへのリダイレクト (省略可)	38

Solaris 10 オペレーティングシステムのユーザー情報	39
Solaris 10 ユーザーマニュアル	39
Solaris 10 OS のトレーニング	39
Solaris インストールプログラムの使用	39
Sun Java Enterprise System	40
Sun Studio 11	40
Solaris オペレーティングシステムの再インストール	40
ソフトウェアのダウンロード	40
索引	41



# はじめに

---

本書『Sun Blade X6440 サーバーモジュール設置マニュアル』では、サーバーモジュールのシャーシへの設置、サービスプロセッサへの接続、およびプリインストールされた Solaris 10™ オペレーティングシステムの設定手順を説明します。

---

## UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX® コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの設定などの手順に関する情報は含まれていないことがあります。このような情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属ソフトウェアのドキュメント
- Solaris オペレーティングシステムドキュメント (<http://docs.sun.com/> で入手可能)

---

## シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルスーパーユーザー	#

---

## 表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『 <i>User's Guide</i> (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

\* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

---

## 関連ドキュメント

下の表に記載されているドキュメントは、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://docs.sun.com>

この Web サイトで、Sun Blade™ X6440 サーバーモジュールを検索してください。

---

**注** ドキュメントの部品番号の下 2 桁を確認することで、そのドキュメントがダウンロード (またはオンラインで参照) 可能な最新版かどうかを判別できます (例: 820-xxxx-XX)。

---



タイトル	内容	部品番号	形式
<i>Sun Blade X6440 Server Module Product Notes (Sun Blade X6440 サーバーモジュールご使用にあたって)</i>	サーバーモジュールに関する最新情報。	820-3965	PDF 版 HTML 版
<i>Sun Blade X6440 サーバーモジュールご使用の手引き</i>	サーバーモジュールの設置および設定に関する基本情報。	820-5336	PDF 版 印刷版
<i>Sun Blade X6440 サーバーモジュール設置マニュアル</i>	サーバーモジュールの設置および設定に関する詳細情報。	820-5306	PDF 版 HTML 版 印刷版
<i>Sun Blade X6440 Server Module Operating System Installation Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュールオペレーティングシステムインストールガイド)</i>	Solaris および Linux オペレーティングシステムのインストール手順。	820-3962	PDF 版 HTML 版
<i>Sun Blade X6440 Server Module Windows Operating System Installation Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド)</i>	Windows Server オペレーティングシステムのインストール手順。	820-3963	PDF 版 HTML 版
<i>Sun Blade X6440 Server Module Service Manual (Sun Blade X6440 サーバーモジュール サービスマニュアル)</i>	サーバーモジュールの保守およびアップグレードに関する情報と手順。	820-3964	PDF 版 HTML 版
<i>Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド</i>	ILOM をサポートするサーバーおよびサーバーモジュールに共通の ILOM の機能と作業。	820-1188	PDF 版 HTML 版

タイトル	内容	部品番号	形式
<i>Sun Integrated Lights Out Manager Supplement for Sun Blade X6440 Server Module</i> (Sun Blade X6440 サーバーモジュール用 ILOM 補足ドキュメント)	サーバーモジュールに固有の ILOM 情報。	820-3967	PDF 版 HTML 版
<i>Sun Blade X6440 Server Module Safety and Compliance Manual</i> (Sun Blade X6440 サーバーモジュール安全の手引き)	サーバーモジュールのハードウェアの安全とコンプライアンスに関する情報。	820-4412	PDF 版
<i>Important Safety Information for Sun Hardware Systems (Sun Hardware Systems 安全上の注意)</i>	Sun のハードウェアシステムに共通の、各国語で記されたハードウェアの安全とコンプライアンスに関する情報。	816-7190	印刷版

## サポートとトレーニング

Sun の部門	URL
サポート	<a href="http://www.sun.com/support/">http://www.sun.com/support/</a>
トレーニング	<a href="http://www.sun.com/training/">http://www.sun.com/training/</a>

## 製品のアップデート

ダウンロードが可能な Sun Blade X6440 サーバーモジュール製品のアップデートについては、次の Web サイトのリンクを参照してください。

<http://www.sun.com/download/>

該当するハードウェアドライバのセクションを見つけ、「X64 Servers & Workstations (X64 サーバーおよびワークステーション)」をクリックします。Sun Blade X6440 サーバーモジュールのサイトでは、ファームウェアとドライバのアップデートに加え、CD-ROM .iso イメージが提供されています。

---

## サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

---

## コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトからお送りください。  
<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>.

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

*Sun Blade X6440 サーバーモジュール設置マニュアル*, 820-5306-10



## サーバーハードウェアの設置

---

この章では、Sun Blade X6440 サーバーモジュールのハードウェアの設置と、サービスプロセッサの接続と検証について説明します。この章では、次の項目について説明します。

- 「開始前のご注意」 (2 ページ)
- 「設置の概要」 (3 ページ)
- 「サーバーモジュールの設置」 (4 ページ)
  - 「コンパクトフラッシュカードの取り付け」 (4 ページ)
  - 「サーバーモジュールの挿入」 (5 ページ)
  - 「サーバーをスタンバイ電源モードにする」 (7 ページ)
- 「サーバーモジュールの電源投入」 (9 ページ)
- 「サーバーモジュールの電源の切断」 (9 ページ)
- 「サーバーモジュールのブート」 (9 ページ)
- 「コンパクトフラッシュカードの取り外し」 (10 ページ)

---

## 開始前のご注意

インストール手順を開始する前に、次のものがあることを確認してください。

- 動作している (設置され、電源の入った) サーバーシャーシ
- シャーシの設置に関するドキュメントとその他のドキュメント
- Sun Blade X6440 サーバーモジュールに付属している RJ-45 シリアルケーブル
- (オプション) サーバーモジュールに付属しているマルチポートドングルケーブル
- 端末または端末エミュレーションソフトウェアを実行しているパーソナルコンピュータ
- Sun Blade X6440 Server Module Operating System Installation Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュールオペレーティングシステムインストールガイド)
- Sun Blade X6440 Server Module Windows Operating System Installation Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド)

## 本書の用語

- 「サーバーモジュール」は、Sun Blade X6440 サーバーモジュールのハードウェアを指すものとします。
- 「シャーシ」は、モジュラシステムのハードウェアを指すものとします。
- 「コンパクトフラッシュカード」は、サーバーモジュールに付属している 16G バイトのカードを指すものとします。このカードにはブート可能なオペレーティングシステムを保存します。
- 「Intergrated Lights Out Manager (ILOM)」は、シャーシおよびサーバーモジュールに設置されたコンポーネントを監視および管理できる内蔵システム管理ソフトウェアを指すものとします。
- 「サービスプロセッサ (SP)」は、ILOM のハードウェア部分を指すものとします。SP は、サーバーのオペレーティングシステムとは独立して動作し、電源オフの状態でも機能します。
- シャーシ監視モジュール (CMM) は、シャーシレベルの ILOM を指すものとします。

---

# 設置の概要

Sun Blade X6440 サーバーモジュールを開梱したら、次の手順に従ってモジュラーシャーシに設置します。シャーシを設置してから、サーバーモジュールを設置してください。

手順	タスク	セクション
1.	CF カードをサーバーモジュールに挿入します。	<a href="#">「コンパクトフラッシュカードの取り付け」(4 ページ)</a>
2.	サーバーモジュールをシャーシに挿入します。	<a href="#">「サーバーモジュールの挿入」(5 ページ)</a>
3.	サーバーをスタンバイ電源モードにします。	<a href="#">「サーバーをスタンバイ電源モードにする」(7 ページ)</a>
4.	シャーシのサービスプロセッサを経由してサーバーモジュールに接続します。	<a href="#">「サーバーモジュール ILOM への接続」(16 ページ)</a>
5.	ILOM IP アドレスを設定します。	<a href="#">「ILOM IP アドレスの設定」(24 ページ)</a>
6.	X6440 サーバーモジュールをカスタマイズします。	<a href="#">「Sun Blade X6440 サーバーモジュールの ILOM のカスタマイズ」(30 ページ)</a>
6.	プリインストールされた Solaris™ オペレーティングシステムを設定します。	<a href="#">第 3 章</a>

---

---

# サーバーモジュールの設置

Sun Blade X6440 サーバーモジュールを設置するには、次の手順に従います。

1. 「コンパクトフラッシュカードの取り付け」(4 ページ)
2. 「サーバーモジュールの挿入」(5 ページ)
3. 「サーバーをスタンバイ電源モードにする」(7 ページ)

## コンパクトフラッシュカードの取り付け

コンパクトフラッシュ (CF) カードスロットはサーバーの背面パネルにあります。CF カードを挿入したり取り外すには、サーバーの電源を切り、シャーシから取り外してください。CF カードの取り外し方法については、「コンパクトフラッシュカードの取り外し」(10 ページ) を参照してください。



---

**注意** - 静電気 (ESD) によってシステムコンポーネントに損傷が生じることがあります。システムのプリント回路基板とハードディスクドライブには、静電気に非常に敏感なコンポーネントが含まれています。コンポーネントを取り扱う前に、ESD リストストラップを装着し、接地線をシャーシの地金または接地された地金の表面に取り付けます。シャーシの前面と背面の両方に接地された場所があります。

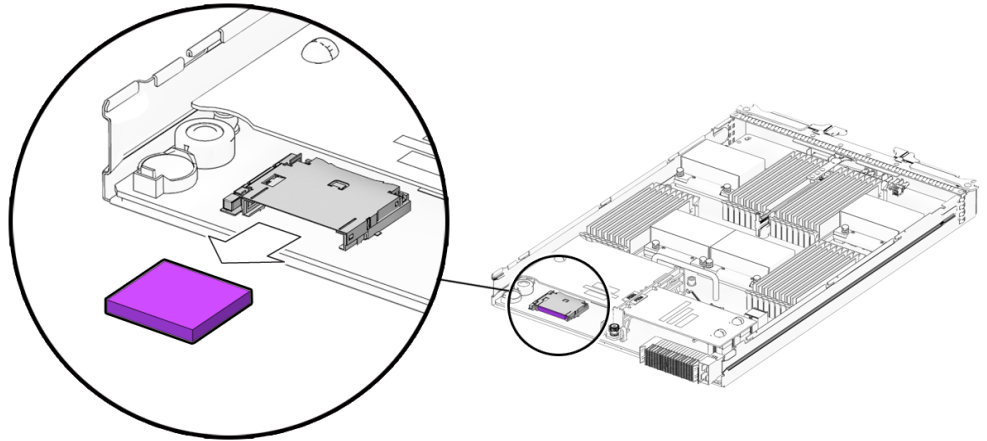
---

### ▼ CF カードを取り付ける

1. サーバーモジュールを平らな場所に置きます。
2. CF カードスロットが [図 1-1](#) に示す位置にくるようにサーバーの向きを変えます。  
CF カードはサーバーのカバーを取り外さなくてもサーバーの背面から抜き差しできますが、必要に応じて、上部カバーを取り外します。



図 1-1 コンパクトフラッシュカードの取り付け



3. CF カードスロットを [図 1-1](#) に示すようにカードスロットに挿入します。  
所定の位置にロックされるまでカードを押し込みます。

## サーバーモジュールの挿入

このセクションでは、Sun Blade X6440 サーバーモジュールのハードウェアのシャーシへの設置について説明します。この手順を実行するには、シャーシの設置が完了している必要があります。

---

**注** – Sun Blade X6440 サーバーモジュールを設置するときに、シャーシの電源を切る必要はありません。

---

### ▼ サーバーモジュールを挿入する

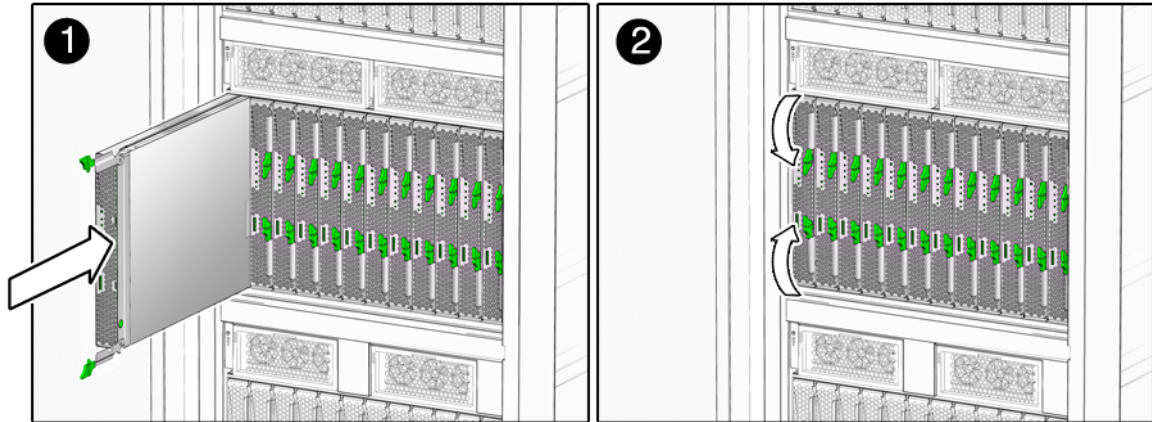
1. Sun Blade X6440 サーバーモジュールを挿入できるシャーシのスロットを探します。
2. シャーシスロットまたは位置番号をメモしておいてください。  
あとでこの番号が必要になります。
3. 必要に応じて、フィルターパネルを取り外します。  
フィルターパネルの取り外しレバーを引き出して、フィルターパネルを取り出します。



**注意** – シャーシが予期せずシャットダウンする危険性があるため、スロットが空のままシャーシを動作させないでください。使用しないスロットには必ずフィラーパネルを挿入し、シャーシのシャットダウンを防止してください。

4. 取り外しレバーが右側になり、外側に引き出せるように、サーバーモジュールを縦にします (図 1-2 参照)。

図 1-2 サーバーモジュールのシャーシへの挿入



5. ストップに当たるまで、サーバーモジュールをスロットに押し込みます。モジュールは少しはみ出すことがあります。
6. サーバーモジュールの前面と面一にそろえられるまで、取り外しレバーを内側に回転させます (図 1-2 参照)。

取り外しレバーを内側に動かすと、サーバーモジュールが内部のシャーシコネクタに完全に固定されます。これで、サーバーモジュールの前面と取り外しレバーのアームがシャーシと面一になるはずですが、サーバーモジュールの電源は入れないでください。

7. サーバーモジュールをスタンバイ電源モードにします。

Sun Blade X6440 サーバーモジュールを挿入したときにシャーシに電源が入っていた場合は、サーバーモジュールにわずかな電源が供給され、数分後にサーバーモジュールがスタンバイモードになります。サーバーモジュールがスタンバイ電源モードになると、青の (取り外し可能) LED が点灯します。

- サーバーモジュールがスタンバイ電源モードになったら、「[サーバーモジュール ILOM への接続](#)」 (16 ページ) に進みます。
- サーバーモジュールがスタンバイ電源モードにならない場合は、次のセクションの「[サーバーをスタンバイ電源モードにする](#)」 (7 ページ) に進みます。

## サーバーをスタンバイ電源モードにする

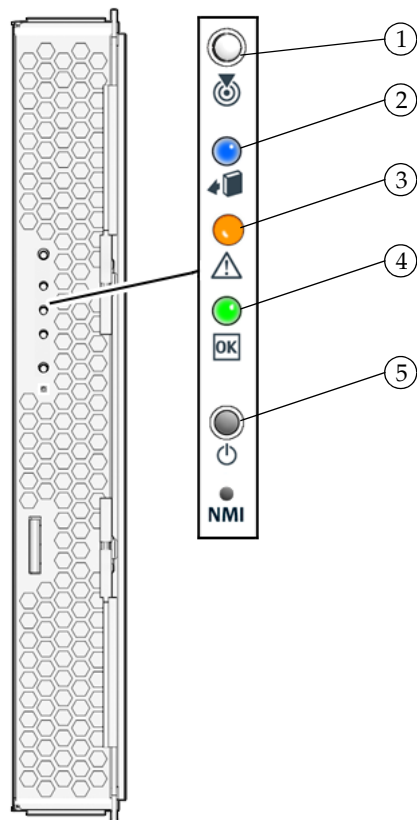
SP の初期の検証と設定を行うには、まずサーバーをスタンバイ電源モードにしてください。サーバーモジュールをスタンバイ電源モードにするには、次のいずれかの方法を実行します。

- サーバーモジュールを電源が入ったシャーシに挿入します。サーバーモジュールの電源は入れません。
- サーバーモジュールを電源が切れたシャーシに挿入し、シャーシの電源を入れます。サーバーモジュールの電源は入れません。

いずれかの方法で、サーバーモジュールにわずかな電源が供給され、1～2分でスタンバイモードになります。スタンバイ電源モードでは、前面パネルにある青の(取り外し可能)LEDが点灯し、SPが機能していることを示します。前面パネルにある青のLEDの位置については、[図 1-3](#)を参照してください。

「[サーバーモジュール ILOM への接続](#)」(16 ページ)に進み、SP の初期の検証と設定を行います。

図 1-3 Sun Blade サーバーモジュールの前面パネル



### 各部の名称

- 
- |   |                 |
|---|-----------------|
| 1 | 白の LED - 位置特定   |
| 2 | 青の LED - 取り外し可能 |
| 3 | 黄色の LED - 保守要求  |
| 4 | 緑の LED - 電源     |
| 5 | 電源ボタン - スタンバイ   |
-

---

## サーバーモジュールの電源投入

サーバーモジュールを電源が入ったシャーシに挿入すると、わずかな電源がサーバーモジュールに適用され、スタンバイモードになります。サーバーモジュールがスタンバイ電源モードになると、青の (取り外し可能) LED が点灯します。

### ▼ サーバーモジュールの電源を投入する

- サーバーモジュールの前面パネルにある電源ボタンを押します。  
サーバーモジュールの電源が入り、ブートします。前面パネルの緑の LED が点灯します。

---

## サーバーモジュールの電源の切断

電源を入れた Sun Blade X6440 サーバーモジュールをシャーシから取り外す前に、完全に操作可能な状態からスタンバイモードにする必要があります。

### ▼ サーバーモジュールの電源を切断する

- 電源ボタンを押し、青の (取り外し可能) LED が点灯するまで押し続けます。  
サーバーがスタンバイモードになり、シャーシから取り出せるようになります。

---

## サーバーモジュールのブート

Blade X6440 サーバーモジュールには、ハードドライブが搭載されていません。サーバーモジュールのシステム BIOS を、外部のドライブからブートするように設定してください。Sun Blade X6440 サーバーモジュールにはコンパクトフラッシュ (CF) カードが搭載されています。これを使用して、一定の数のオペレーティングシステムをブートし、サーバーを操作可能な状態にすることができます。Sun Blade X6440 サーバーモジュールのブートの詳細は、『*Sun Blade X6440 Server Module Operating System Installation Guide* (Sun Blade X6440 サーバーモジュールオペレーティングシステムインストールガイド)』および『*Sun Blade X6440 Server Module Windows Operating System Installation Guide* (Sun Blade X6440 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド)』を参照してください。

---

# コンパクトフラッシュカードの取り外し

CF カードスロットはサーバーの背面にあります。CF カードを取り外すには、まずサーバーをシャーシから取り外してください。

---

**注** – CF カードを取り外すと、サーバーモジュールをブートできなくなります。

---

## ▼ CF カードを取り外す



---

**注意** – シャーシが予期せずシャットダウンする危険性があるため、スロットが空のままシャーシを動作させないでください。使用しないスロットには必ずフィラーパネルを挿入し、シャーシのシャットダウンを防止してください。

---

1. サーバーの電源を切ります (「[サーバーモジュールの電源の切断](#)」(9 ページ) 参照)。

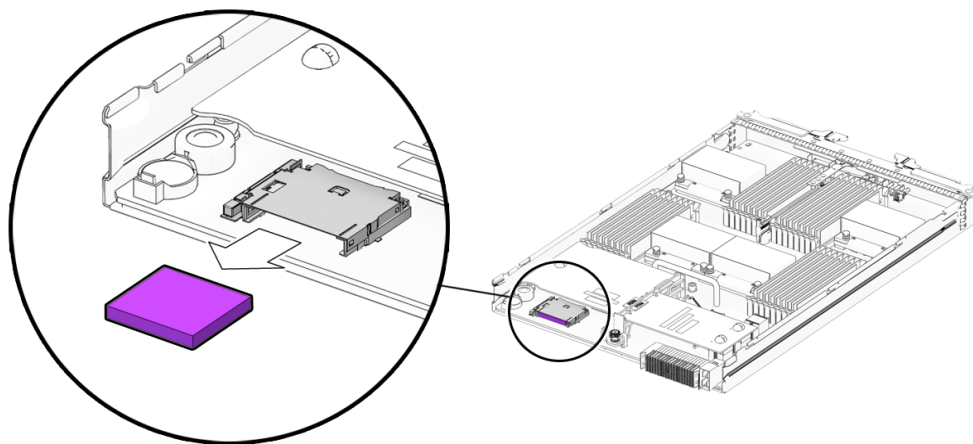
---

**注** – Sun Blade X6440 サーバーモジュールを取り外すときに、シャーシの電源を切る必要はありません。

---

2. 取り外しレバーを上引き上げ、レバーを水平になるまで回します。  
レバーを回転させると、サーバーモジュールが内部のコネクタから引き出され、簡単に取り外せます。
3. スロットからサーバーモジュールをスライドさせて取り外します。
4. サーバーモジュールを平らな場所に置きます。
5. 空のスロットにフィラーパネルを挿入します。
6. CF カードスロットが [図 1-4](#) に示す位置にくるようにサーバーの向きを変えます。

図 1-4 コンパクトフラッシュカードの取り外し



7. CF カードの端を押します。
8. CF カード取り外しボタンを押し、カードをホルダーから外します。  
これにより、ばねでカードが排出されます。
9. カードを取り外します。





## サーバーソフトウェアのセットアップ

---

この章では、Sun™ Integrated Lights Out Manager ソフトウェアをの設定およびアクセス方法、プラットフォームオペレーティングシステムとドライバソフトウェアのセットアップ方法を説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 「Integrated Lights Out Manager」 (13 ページ)
  - 「サービスプロセッサについて」 (14 ページ)
  - 「事前設定された管理者アカウントの概要」 (14 ページ)
  - 「ILOM への接続の概要」 (15 ページ)
  - 「サーバーモジュール ILOM への接続」 (16 ページ)
  - 「ILOM IP アドレスの設定」 (24 ページ)
  - 「Sun Blade X6440 サーバーモジュールの ILOM のカスタマイズ」 (30 ページ)
- 「プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ」 (30 ページ)

---

## Integrated Lights Out Manager

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、システムを管理できるようにする内蔵システム管理ソフトウェアです。ILOM を使用すると、シャーシおよびサーバーモジュールに取り付けられたコンポーネントの監視、ネットワーク情報の設定、ハードウェア設定の表示と編集、重要なシステム情報の監視、およびユーザーアカウントの管理を行うことができます。

ILOM には、Web ブラウザインタフェース、コマンドラインインタフェース (CLI)、SNMP インタフェース、IPMI インタフェースなど、さまざまなインタフェースを介してアクセスできます。

---

**注** – この章では、コマンドラインインタフェースと Web ブラウザを使用して ILOM にアクセスする方法を説明します。他の方法については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。

---

## サービスプロセッサについて

サービスプロセッサ (SP) は、サーバーモジュールのマザーボードにあるコンポーネントで、システムの他のハードウェアとは無関係に動作します。SP は、独自の IP アドレスと MAC アドレスを持ち、他のシステムハードウェアの状態とは無関係に動作します。サーバーモジュールで使用すると、サーバーの状態 (フル動作、電源オフ、その中間のいずれか) に依存せずに動作します。

シャーシ監視モジュール (CMM) およびシャーシに設置されたサーバーモジュールごとに、固有のサービスプロセッサが使用されます。

本書では、次の用語の使い方に注意してください。

- 「シャーシ監視モジュール (CMM)」は、シャーシ上のハードウェアモジュールを指すものとします。
- 「CMM ILOM」は、CMM 上の ILOM ソフトウェアを指すものとします。
- 「サーバーモジュールサービスプロセッサ (SP)」は、サーバーモジュールの SP ハードウェアを指すものとします。
- 「サーバーモジュール ILOM」は、サーバーモジュール SP 上の ILOM ソフトウェアを指すものとします。

サーバーモジュールによって、サービスプロセッサは異なります。

## 事前設定された管理者アカウントの概要

サーバーモジュール ILOM には、出荷時に次の管理者アカウントが事前設定されています。

ユーザー名: root

パスワード: changeme

事前設定の管理者アカウント (root) は、削除または変更できません。ただし、パスワードは変更できます。このアカウントには、すべてのサービスプロセッサの機能とコマンドを使用できる管理者権限 (読み取りおよび書き込みアクセス) が組み込まれています。

---

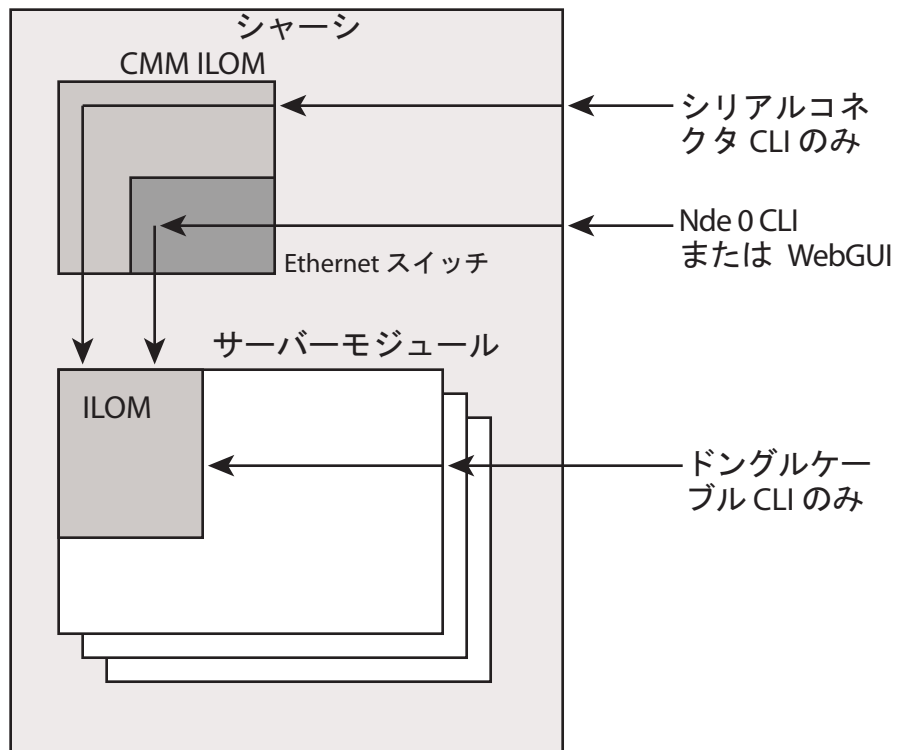
**注** – CMM ILOM は、同じ管理者アカウントが事前設定された状態で出荷されます。ユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。

---

## ILOM への接続の概要

図 2-1 に、サーバーモジュール ILOM への接続方法を示します。

図 2-1 ILOM への接続オプション



## サーバーモジュール ILOM への接続

サーバーモジュールのインストールを続行するには、ILOM に接続できることを確認する必要があります。

サーバーモジュール ILOM には、次のいずれかの方法で接続できます。詳細は、各セクションで説明します。

---

**注** – オプション 1 または オプション 2 では、IP アドレスなしで ILOM に接続できます。これらのオプションでは、ILOM のコマンドラインインタフェース (CLI) にのみアクセスできます。オプション 3 では、ILOM の IP アドレスが必要です。ただし、CLI および Web GUI にアクセスできます。ほとんどのユーザーは ILOM の IP アドレスを設定し、オプション 3 を使用して接続します。

ILOM の IP アドレスの設定方法は、「[ILOM IP アドレスの設定](#)」(24 ページ) で説明します。

---

- オプション 1. シャーシ上のシリアルコネクタにより CMM ILOM に接続します。次に CMM ILOM で、サーバーモジュール ILOM に移動します。「[オプション 1: シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続](#)」(16 ページ) を参照してください。
- オプション 2. ドングルケーブルを使用して、サーバーモジュール ILOM に直接シリアル接続を確立します。「[オプション 2: ドングルケーブルによる ILOM への接続](#)」(20 ページ) を参照してください。
- オプション 3. Ethernet を介して接続します。この場合、接続には CLI と Web GUI アクセスの両方を使用できます。「[オプション 3: Ethernet ポートによる ILOM への接続](#)」(21 ページ) を参照してください。

次に、これらの方法を詳しく説明します。

### オプション 1: シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続

シャーシ上のシリアルコネクタは、CMM ILOM に接続しています。CMM ILOM から、サーバーモジュールの ILOM に接続するためのコマンドが送信されます。

#### ▼ シャーシのシリアルコネクタを使用して ILOM に接続する

端末または PC で稼動している端末エミュレータソフトウェアをシャーシの RJ-45 シリアルポートに接続すれば、いつでも CMM ILOM にアクセスできます。CMM ILOM のコマンドラインインタフェース (CLI) を使うと、サーバーモジュール ILOM に接続できます。

正常に接続するには、サーバーモジュールがシャーシに設置されている必要があります。

1. 使用している端末、ラップトップ、または端末サーバーが稼働していることを確認します。
2. 端末デバイスまたは端末エミュレーションソフトウェアを次のように設定します。
  - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
  - 9600 ボー (デフォルト、57600 までの標準レートのいずれにも設定可)
  - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
3. シャーシのシリアルポートから端末デバイスにシリアルケーブルを接続します。  
シリアルポートの場所は、シャーシの説明書で確認してください。

---

**注** – シリアルポートでは次のようにピンを割り当てる必要があります。このピン配列は、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) または Remote System Control (RSC) 用のシリアルケーブルコネクタと同じです。表 2-1 を参照してください。

---

表 2-1 シリアル管理ポートのピン配列

ピン番号	信号名
1	送信要求 (RTS)
2	データ端末レディ (DTR)
3	データ送信 (TXD)
4	アース
5	アース
6	データ受信 (RXD)
7	データキャリア検出 (DCD)
8	送信許可 (CTS)

4. 端末デバイスの Enter キーを押します。  
端末デバイスと CMM ILOM の間の接続が確立します。

---

**注** – 電源を投入する前または起動シーケンス中に端末やエミュレータをシリアルポートに接続すると、ブートアップメッセージが表示されます。

---

システムがブートすると、CMM ILOM によって、次のログインプロンプトが表示されます。

```
SUNCMMnnnnnnnnnnnn login:
```

プロンプトの最初の文字列はデフォルトのホスト名で、プレフィックス「SUNCMM」と CMM ILOM の MAC アドレスからなります。各サービスプロセッサには固有の MAC アドレスが割り当てられています。

5. CLI にログインするには、次の手順に従ってください。

a. デフォルトのユーザー名 (**root**) を入力します。

b. デフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。

正常にログインすると、CMM ILOM にデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

->

これで CMM ILOM CLI に接続されました。

6. 次のコマンドを入力してサーバーモジュール ILOM に移動します。

-> **cd /CH/BL $n$ /SP/cli**

$n$  には、サーバーモジュールの番号 0 ~ 9 に対応した数字 (0 ~ 9) を入力します。

7. **start** コマンドを入力します。

プロンプトが表示されます。

8. 継続するには「**y**」、キャンセルするには「**n**」と入力します。

「**y**」と入力した場合は、サーバーモジュール ILOM のパスワードを入力するプロンプトが表示されます。

---

**注** - CMM ILOM から、/CH/BL $n$ /SP/cli ( $n$  はサーバーモジュールの番号) の下の Target の user のユーザー名を使用してサーバーモジュール ILOM にログオンします。

---

9. プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

デフォルトのパスワードは **changeme** です。

サーバーモジュール ILOM のプロンプトが表示されます。これでサーバーモジュールに接続されました。

10.完了したら、「**exit**」と入力します。

サーバーモジュール ILOM が終了し、CMM CLI のプロンプトが表示されます。

次に、ログイン画面の例を示します。

```
-> cd /CH/BL2/SP/cli
/CH/BL2/SP/cli

-> start
Are you sure you want to start /CH/BL2/SP/cli (y/n)? y
Password:          サーバーモジュールILOM へのパスワードを入力します。

Sun(TM) Integrated Lights Out Manager

Version 2.0.3.9

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

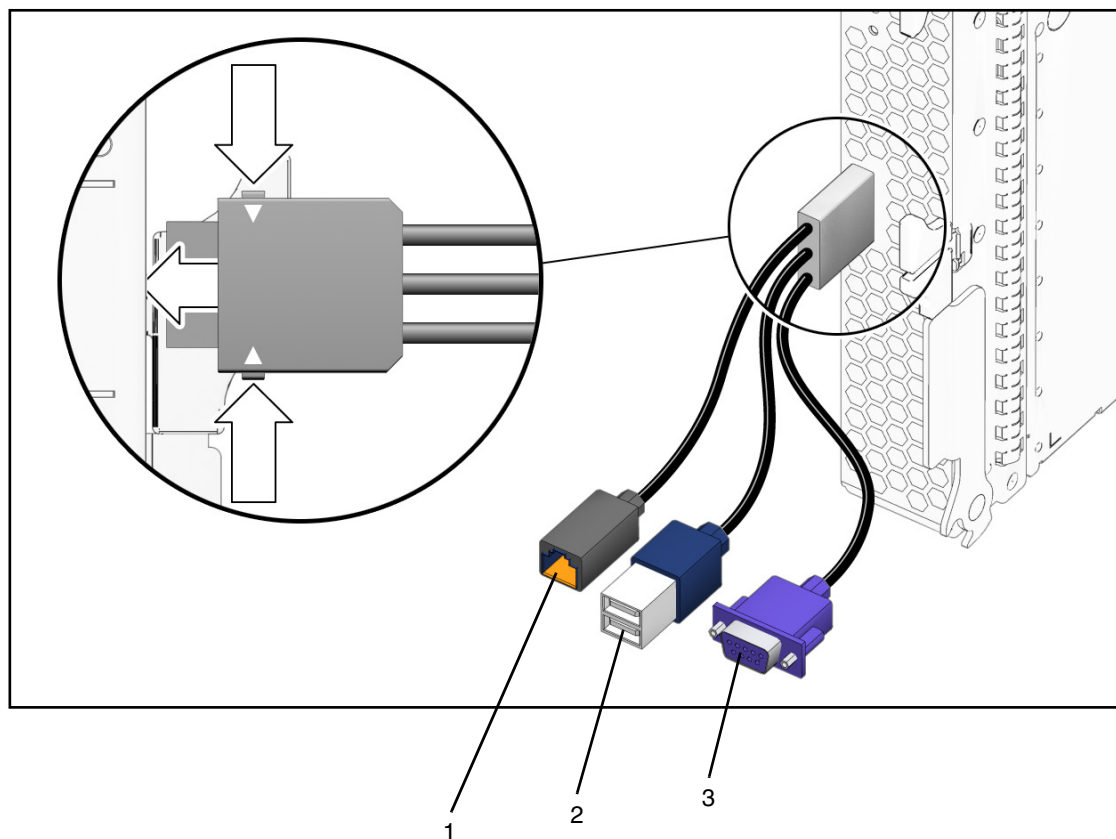
Warning: password is set to factory default.

-> exit          このコマンドを実行すると、サーバーモジュールILOM を終了
してCMM ILOM に戻ります。
Connection to 10.6.153.33 closed.
```

## オプション 2: ドングルケーブルによる ILOM への接続

ドングルケーブルを使用して、端末をサーバーモジュール ILOM に直接接続できます。図 2-2 に、サーバーモジュールへのドングルケーブルの接続方法を示します。

図 2-2 ドングルケーブル



### 各部の名称

	コネクタ	状態
1	シリアルポートコネクタ	使用中
2	デュアル USB コネクタ	使用中
3	VGA ビデオコネクタ	使用中



## ▼ ドングルケーブルを使用して ILOM に接続する

1. ドングルケーブルをサーバーモジュールに接続します。
2. 端末または端末エミュレータをドングルケーブルの RJ-45 シリアルポートコネクタ (図中 1) に接続します。  
ILOM のログインプロンプトが表示されます。
3. プロンプトが表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。  
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。  
サーバーモジュール ILOM のプロンプトが表示されます。
4. ILOM を終了するには、次のように入力します。  
-> **exit**

## オプション 3: Ethernet ポートによる ILOM への接続

シャーシの Ethernet ポートを使用すると、最も堅牢性の高い ILOM 接続を確立できます。この方法では、CLI と Web GUI の両方を使用できます。

ILOM には、RJ-45 コネクタ用 NET MGT 0 Ethernet ポートまたは対応する Network Express Module (NEM) ポートのどちらかを使用して接続できます。

Ethernet を使用して接続するには、ILOM の IP アドレスが必要です。

---

**注** – ILOM の IP アドレスを設定する方法は、「[ILOM IP アドレスの設定](#)」(24 ページ)を参照してください。

---

## ILOM へのログインとログアウト

ILOM コマンドラインインタフェース (CLI) または Web GUI を使用して ILOM にアクセスできます。

### ▼ ILOM CLI にログインおよびログアウトする

ILOM では、Ethernet を介して CLI に Secure Shell (SSH) からアクセスできます。

1. SSH クライアントを起動します。
2. ILOM にログインするには、次のように入力します。

```
$ ssh root@ipaddress
```

*ipaddress* はサーバー SP の IP アドレスです。

3. プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。  
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。  
次に例を示します。

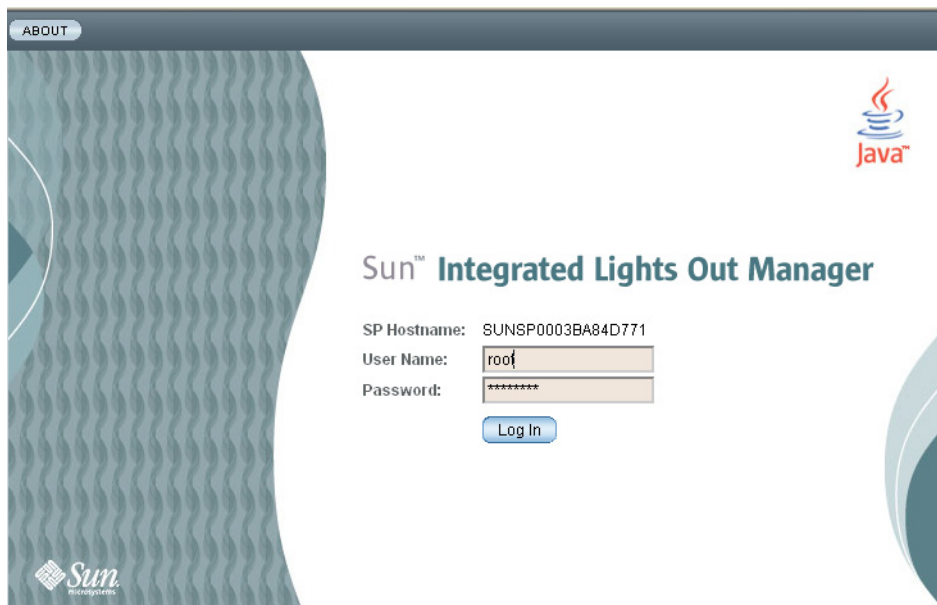
```
$ ssh root@192.168.25.25
root@192.168.25.25's password:
Sun Integrated Lights Out Manager
Version 2.0.3.9
Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Warning: password is set to factory default.
->
```

4. ILOM からログアウトするには、「**exit**」と入力します。

## ▼ ILOM Web GUI にログインおよびログアウトする

1. ILOM Web GUI にログインするには、ILOM サービスプロセッサの IP アドレスを Web ブラウザに入力します。  
ILOM のログイン画面が表示されます。

図 2-3 ILOM のログイン画面



2. ユーザー名とパスワードを入力します。

Web GUI に初めてアクセスする場合には、デフォルトのユーザー名とパスワードを入力するように要求されます。デフォルトのユーザー名とパスワードは、次のとおりです。

- デフォルトのユーザー名: root
- デフォルトのパスワード: changeme

デフォルトのユーザー名とパスワードには、小文字を使ってください。

3. 「Log In (ログイン)」をクリックします。

Web GUI が表示されます。

4. Web GUI からログアウトするには、Web GUI の右上にある「Log Out (ログアウト)」ボタンをクリックします。

ILOM ログアウト画面が表示されます。

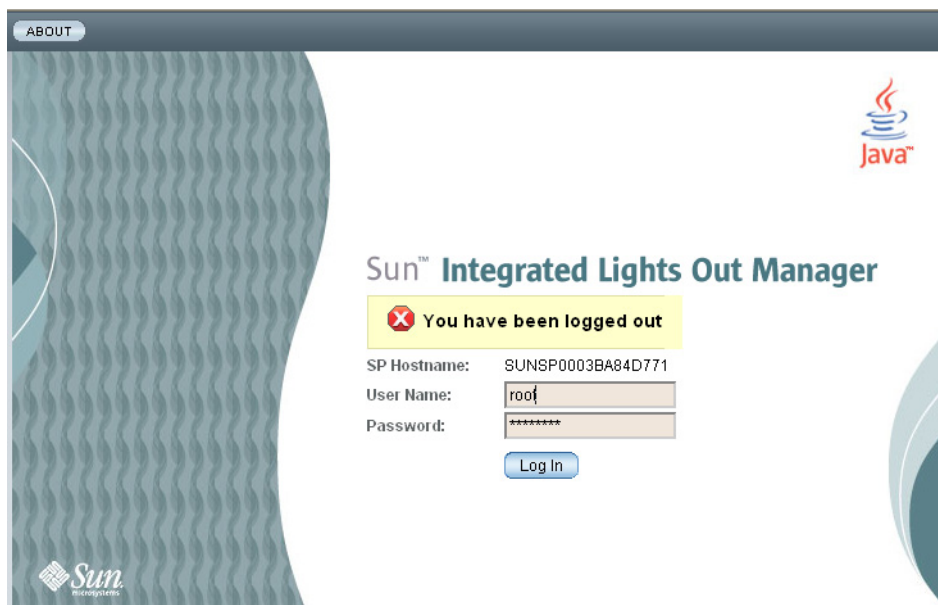


---

**注意** – ILOM Web GUI からログアウトするときに Web ブラウザのログアウトボタンは使用しないでください。

---

図 2-4 ILOM のログアウト画面



# ILOM IP アドレスの設定

このセクションでは、ILOM の IP アドレスを表示して設定する方法を説明します。次の項目について説明します。

- 「ILOM IP アドレスを表示する」(24 ページ)
- 「BIOS セットアップユーティリティを使用して ILOM IP アドレスを設定する」(24 ページ)
- 「DHCP を使用して ILOM IP アドレスを設定する」(26 ページ)
- 「CLI を使用して ILOM IP アドレスを設定する」(27 ページ)

## ▼ ILOM IP アドレスを表示する

1. 「サーバーモジュール ILOM への接続」(16 ページ) のいずれかの方法により ILOM CLI にログインします。

Ethernet の SSH 接続を使用するには、IP アドレスが必要です。

2. *root* ディレクトリから次のコマンドを入力します。
  - a. IP アドレスに関連するすべての情報を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/network
```

- b. IP アドレスだけを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/network/ipaddress
```

## ▼ BIOS セットアップユーティリティを使用して ILOM IP アドレスを設定する

BIOS セットアップユーティリティを使用して、ILOM の IP アドレスを設定できます。IP アドレスは、手動で設定する (静的) か、DHCP を使用して設定します。

1. 次の項目を確認します。
  - DHCP サーバーが新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるよう設定されている。
  - DHCP サーバーが対応する NEM ポートまたは RJ-45 NET MGT Ethernet ポートに接続されている。
2. BIOS セットアップユーティリティを起動します。

- a. システムをブートします。

- b. ブートメッセージに注意してください。F2 キーを押して BIOS セットアップを開始する行が表示されます。

- c. そのメッセージが表示されたら F2 キーを押します。

メッセージの後に画面が変わり、**BIOS** セットアップユーティリティが表示されます。

3. 「Advanced (詳細)」 タブを選択します。  
「Advanced (詳細)」 ページが表示されます。
4. リストの「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」をハイライトし、Enter キーを押します。  
「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」 ページが表示されます。
5. 「LAN Configuration (LAN 構成)」をハイライトし、Enter キーを押します。  
「LAN Configuration (LAN 構成)」 ページが表示されます。
6. 「LAN Configuration (LAN 構成)」 ページで、「IP Assignment (IP 割り当て)」の下の「DHCP」または「Static (静的)」を選択します。  
「Static (静的)」を選択した場合は、ページ末尾で IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを入力します。
7. 「Commit (コミット)」を選択して変更を保存します。  
BIOS ユーティリティにより自動的にアドレスフィールドが更新されます。
  - 「Static (静的)」を選択した場合は、ここで作業は終了です。
  - 「DHCP」を選択した場合は、DHCP サーバーにより IP アドレスがサーバーモジュール ILOM に割り当てられます。手順 8 に進みます。



---

**注意** – このページでの変更を保存するには、「Commit (コミット)」を選択する必要があります。F10 キーを押しても変更は保存されません。

---

8. DHCP がサーバーモジュール ILOM に割り当てた IP アドレスを確認するには、次のいずれかを実行します。
  - オプション 1 またはオプション 2 (「サーバーモジュール ILOM への接続」(16 ページ)を参照)を使用して、ILOM CLI にログインし、次のコマンドを入力します。  
**show /SP/network**
  - DHCP ログファイルを確認します。

---

**注** – ログファイルは、オペレーティングシステムや DHCP サーバーにより、保存される場所が異なります。DHCP システム管理者に問い合わせ、ログファイルへの正しいパスを入手してください。

---

通常、DHCP ログファイルのエントリは、次のようにコンマで区切られたフィールドを持つ個別の行です。

*ID, Date, Time, Description, IP Address, Host Name, MAC Address*

正しい DHCP ファイルエントリの MAC アドレス (7 番目) フィールドで ILOM の MAC アドレスを探し、IP アドレス (5 番目) フィールドの対応する値を記録します。このアドレスを使って、Web GUI および ILOM リモートコンソールアプリケーションにアクセスする必要があります。

## ▼ DHCP を使用して ILOM IP アドレスを設定する

この手順では、DHCP を使用して ILOM に IP アドレスを割り当てます。

1. DHCP サーバーが新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるよう設定されていることを確認します。

2. 次のいずれかの場所からサーバーモジュール ILOM の MAC アドレスを取得します。

MAC アドレスは、12 桁の 16 進数文字列で、`xx:xx:xx:xx:xx:xx` の形式で表示されます。「x」は、各 1 個の 16 進数文字 (0 ~ 9、A ~ F、a ~ f) です。参照用に、このアドレスを記録します。

- サーバーモジュールのシリアルポートに端末デバイスを接続し、ILOM にログインして、コマンド `show /SP/network` を入力すると、現在の MAC アドレスが表示されます。「[オプション 2: ドングルケーブルによる ILOM への接続](#)」(20 ページ) を参照してください。
- CMM のシリアルポートに端末デバイスを接続し、CMM にログインして、コマンド `show /CH/BLn/SP/network` を入力すると、現在の MAC アドレスが表示されます。「[オプション 3: Ethernet ポートによる ILOM への接続](#)」(21 ページ) を参照してください。
- サーバーに付属のお客様情報シートに MAC アドレスが記載されています。
- システムの BIOS セットアップ画面で MAC アドレスを確認します。そのためには、「Advanced (詳細)」、「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」、「Set LAN Configuration (LAN 構成の設定)」、「MAC アドレス (MAC アドレス)」の順に選択します。

3. Ethernet ケーブルをサーバーモジュールに対応する Network Express Module (NEM) ポートに接続します。

NEM ポートの場所は、シャーシの説明書で確認してください。

---

**注** – サーバーモジュール ILOM に IP アドレスを割り当てる前に、NEM ポートを使って DHCP をサーバーモジュールに接続しておく必要があります。

DHCP が RJ-45 NET MGT Ethernet ポートにだけ接続されている場合は、サーバーモジュール ILOM に自動的にアドレスを割り当てることはできません。

---

4. サーバーモジュール ILOM をリセットします。

- a. サーバーモジュール ILOM にログインします。「[オプション 1: シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続](#)」(16 ページ) または「[オプション 3: Ethernet ポートによる ILOM への接続](#)」(21 ページ) を参照してください。

- b. `reset` コマンドを入力します。

-> `reset /SP`

DHCP は、サーバーモジュールの再起動時に ILOM の IP アドレスを自動的に割り当てます。

5. DHCP がサーバーモジュール ILOM に割り当てた IP アドレスを確認します。

「[BIOS セットアップユーティリティを使用して ILOM IP アドレスを設定する](#)」  
(24 ページ) の手順 8 を参照してください。

## ▼ CLI を使用して ILOM IP アドレスを設定する

ここでは、CLI を使用して ILOM IP アドレスを手動で設定する方法について説明します。

1. サーバーモジュール ILOM に、次のいずれかの方法で接続します。
  - 「[オプション 1: シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続](#)」  
(16 ページ) の説明に従って、シャーシのシリアルコネクタを使用してサーバーモジュール ILOM に接続する。
  - 「[オプション 2: ドングルケーブルによる ILOM への接続](#)」 (20 ページ) の説明に従って、ドングルケーブルを使用してサーバーモジュール ILOM に接続する。
  - 「[オプション 3: Ethernet ポートによる ILOM への接続](#)」 (21 ページ) の説明に従って、SSH を使用してサーバーモジュール ILOM に接続する。
2. IP アドレスを表示するには、「**show /SP/network/ipaddress**」と入力します。  
最後の文字列 **/ipaddress** は省略可能です。

```
-> show /SP/network/ipaddress

/SP/network
  Targets:

  Properties:
    ipaddress = 10.6.153.148

  Commands:
    show

->
```

3. /SP/network に移動するには、次のように入力します。

```
-> cd /SP/network
```

4. 次のいずれかを実行します。

- 静的 Ethernet 設定を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
-> set pendingipdiscovery=static
-> set pendingipaddress=xxx.xxx.xx.xx
-> set pendingipnetmask=yyy.yyy.yyy.y
-> set pendingipgateway=zzz.zzz.zz.zzz
-> set commitpending=true
```

xxx.xxx.xx.xx, yyy.yyy.yyy.y および zzz.zzz.zz.zzz は、それぞれ ILOM およびネットワーク設定で使用される IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイです。これらのアドレスは、システム管理者にお問い合わせください。

- 動的 Ethernet 設定を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
-> set pendingipdiscovery=dhcp
-> set commitpending=true
```

5. ILOM からログアウトするには、次のように入力します。

```
-> exit
```

CMM ILOM を介してサーバーモジュールに接続している場合は、CMM ILOMに戻ります。

SSH を使用して ILOM に接続している場合は、異なる IP アドレスでログインしているため、自動的に切断されます。切断に長い時間がかかる場合は、SSH ウィンドウで「~.」と入力して強制的に切断できます。

次の例では、静的設定を表示し、それを動的になるように設定し、新しい設定を表示する一般的なセッションを示します。



```
-> cd /SP/network
```

```
-> show
```

```
/SP/network
```

```
Targets:
```

```
Properties:
```

```
commitpending = (Cannot show property)
ipaddress = 10.6.42.42
ipdiscovery = static
ipgateway = 10.6.42.1
ipnetmask = 255.255.255.0
macaddress = 00:14:4F:3A:26:74
pendingipaddress = 10.6.42.42
pendingipdiscovery = static
pendingipgateway = 10.6.42.1
pendingipnetmask = 255.255.255.0
```

```
Commands:
```

```
cd
set
show
```

```
-> set pendingipdiscovery=dhcp
```

```
Set 'pendingipdiscovery' to 'dhcp'
```

```
-> set commitpending=true
```

```
Set 'commitpending' to 'true'
```

SSH を使用してログインした場合は、  
この時点で切断されます。

```
-> show
```

```
/SP/network
```

```
Targets:
```

```
Properties:
```

```
commitpending = (Cannot show property)
ipaddress = 10.6.42.191
ipdiscovery = dhcp
ipgateway = 10.6.42.1
ipnetmask = 255.255.255.0
macaddress = 00:14:4F:3A:26:74
pendingipaddress = 10.6.42.191
pendingipdiscovery = dhcp
pendingipgateway = 10.6.42.1
pendingipnetmask = 255.255.255.0
```

```
Commands:
```

```
cd
set
show
```

# Sun Blade X6440 サーバーモジュールの ILOM のカスタマイズ

Sun Blade X6440 サーバーモジュールの ILOM をカスタマイズして、ユーザーの管理、イベントフィルタの定義、電子メール通知の設定などを行ったり、Web ベースのインタフェースを使用したりするには、次の Sun ドキュメントを参照してください。

- *Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 2.0 ユーザーズガイド*
- *Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) Supplement for Sun Blade X6440 Server Module (Sun Blade X6440 サーバーモジュール用 ILOM 補足ドキュメント)*

---

## プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ

サーバーモジュール ILOM のネットワーク設定を行ったあと、プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムを設定するか、サポートされている Linux または Windows のオペレーティングシステムとドライバをインストールできます。

- プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムを使用するには、「[プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステム](#)」(31 ページ)を参照してください。
- サポートされている Linux や Solaris のオペレーティングシステムと必要なドライバのインストールについては、『*Sun Blade X6440 Server Module Operating System Installation Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュールオペレーティングシステムインストールガイド)*』(820-3962)を参照してください。
- サポートされている Windows オペレーティングシステムと必要なドライバのインストールについては、『*Sun Blade X6440 Server Module Windows Operating System Installation Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド)*』(820-3963)を参照してください。
- サーバーに固有の OS に関するその他の注意点については、『*Sun Blade X6440 Server Module Product Notes (Sun Blade X6440 サーバーモジュールご使用にあたって)*』(820-3965)も参照してください。

## プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステム

---

この章では、サーバーにプリインストールされている Solaris™ 10 オペレーティングシステム (OS) の設定手順を説明します。プリインストールされているバージョンは Solaris 10 5/08 以降です。

---

**注** – Sun Blade X6440 サーバーモジュールにモニターを接続した場合、サーバーの電源を入れてもモニターにプリインストールされた Solaris 10 イメージは表示されません。BIOS の電源投入時の自己診断テスト (POST) とその他のブート情報が出力されます。これは、出荷時にはサーバーのコンソールがシリアルポートにリダイレクトされているためです。出力を VGA (ビデオポート) に送ることもできます。詳細は、「[コンソールの出力のビデオポートへのリダイレクト \(省略可\)](#)」(38 ページ) を参照してください。

---

この章では、次の項目について説明します。

- 「[開始前のご注意](#)」(32 ページ)
- 「[プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定](#)」(36 ページ)
- 「[Solaris 10 オペレーティングシステムのユーザー情報](#)」(39 ページ)
- 「[Solaris インストールプログラムの使用](#)」(39 ページ)
- 「[Solaris オペレーティングシステムの再インストール](#)」(40 ページ)

## 開始前のご注意

プリインストールされた Solaris 10 OS を設定する前に、次の作業を行う必要があります。

- 第 2 章の手順に従って、サーバーの ILOM の初期設定を行い、サーバーのネットワーク設定を確認します。
- 「インストールのためのワークシート」(32 ページ) に示す設定に必要な情報を収集します。

---

**ヒント** – サーバーモジュール、PCI Express Module、および SP MAC のアドレスを確認するには、システムボックスに付属のお客様情報シート、または各ラベルに印刷されているサーバー、PCI EM、SP MAC アドレスを参照してください。

---

## インストールのためのワークシート

表 3-1 のワークシートを使用して、プリインストールされた Solaris 10 OS の設定に必要な情報を収集します。システムのアプリケーションに適用する情報のみを収集します。

表 3-1 Solaris 10 設定用ワークシート

インストールのための情報	説明または例	回答(* はデフォルト)
言語	Solaris 10 ソフトウェアに使用できる言語をリストから選択します。	英語*
地域	サポート対象の地域のリストから自分の地域を選択します。	
端末	使用可能な端末タイプのリストから、使用している端末のタイプを選択します。	
ネットワーク接続	システムはネットワークに接続されていますか?	<ul style="list-style-type: none"><li>• ネットワークに接続されている</li><li>• ネットワークに接続されていない*</li></ul>
DHCP	ネットワークインタフェースの設定に DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用できますか?	<ul style="list-style-type: none"><li>• はい</li><li>• いいえ*</li></ul>

表 3-1 Solaris 10 設定用ワークシート(続き)

インストールのための情報	説明または例	回答(*はデフォルト)	
DHCP を使用していない場合、ネットワークアドレスを入力します。	IP アドレス	DHCP を使用していない場合、システムに IP アドレスを割り当てます。 例: 129.200.9.1	
	サブネット	DHCP を使用していない場合、システムはサブネットの一部ですか? システムがサブネットの一部である場合、サブネットのネットマスクを入力します。 例: 255.255.0.0	255.255.0.0*
	IPv6	このマシンで IPv6 を有効にしますか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• はい</li> <li>• いいえ*</li> </ul>
ホスト名	システムに指定したホスト名		
Kerberos	このマシンで Kerberos セキュリティを設定しますか? 設定する場合、次の情報を収集してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• はい</li> <li>• いいえ*</li> </ul>	
	デフォルトレルム: 管理サーバー: 第 1 KDC: (省略可) その他の KDC:		

表 3-1 Solaris 10 設定用ワークシート(続き)

インストールのための情報	説明または例	回答(* はデフォルト)
ネームサービス	ネームサービス	<p data-bbox="472 241 993 291">該当する場合は、このシステムで使うネームサービスを<input type="checkbox"/>入力します。</p> <ul data-bbox="1015 241 1105 395" style="list-style-type: none"> <li>• NIS+</li> <li>• NIS</li> <li>• DNS</li> <li>• LDAP</li> <li>• なし*</li> </ul>
	ドメインネーム	システムが含まれているドメインの名前を入力します。
	NIS+ と NIS	<p data-bbox="472 491 993 541">自分でネームサーバーを指定しますか、またはインストールプログラムによって自動的に指定しますか?</p> <ul data-bbox="1015 491 1232 541" style="list-style-type: none"> <li>• IP アドレスを指定</li> <li>• 自動的に指定*</li> </ul>
	DNS	<p data-bbox="472 564 993 614">DNS サーバーの IP アドレスを入力します。少なくとも 1 個は入力する必要があります (最高 3 個)。</p> <p data-bbox="472 664 993 715">DNS の問い合わせ時に検索するドメインのリストも入力できます。</p> <p data-bbox="862 725 1003 746">検索ドメイン:</p> <p data-bbox="862 758 1003 779">検索ドメイン:</p> <p data-bbox="862 791 1003 812">検索ドメイン:</p>
	LDAP	<p data-bbox="472 835 993 855">LDAP プロファイルについて次の情報を入力します。</p> <p data-bbox="839 868 1003 888">プロファイル名:</p> <p data-bbox="765 900 1003 921">プロファイルサーバー:</p> <p data-bbox="472 933 993 984">LDAP プロファイルにプロキシ認証レベルを指定する場合は、次の情報を収集します。</p> <p data-bbox="748 996 1003 1017">プロキシバインド識別名:</p> <p data-bbox="705 1029 1003 1050">プロキシバインドパスワード:</p>

表 3-1 Solaris 10 設定用ワークシート(続き)

インストールのための情報	説明または例	回答(*はデフォルト)
デフォルトルート	<p>自分でデフォルトルート IP アドレスを指定しますか、または Solaris インストールプログラムによって自動的に指定しますか?</p> <p>デフォルトルートは、2つの物理ネットワーク間でトラフィックを転送するブリッジの役目を果たします。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する固有の数字です。</p> <p>次のようなオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分で IP アドレスを指定できます。指定された IP アドレスを使用して、<code>/etc/defaultrouter</code> ファイルが作成されます。システムのリブート時に、指定した IP アドレスがデフォルトのルートになります。</li> <li>• Solaris インストールプログラムを使用して、IP アドレスを検出できます。ただしその場合は、システムがルータのあるサブネット上にあり、そのルータがルータ検索用の Internet Control Message Protocol(ICMP) (ICMP) を使用して公開されている必要があります。コマンドラインインタフェースを使用する場合、システムのブート時に IP アドレスが自動的に検出されます。</li> <li>• この時点でルータを使用していないか、ソフトウェアによって IP アドレスを検出しない場合には、「なし」を選択することもできます。ソフトウェアは、リブート時に IP アドレスを自動的に検出します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IP アドレスを指定</li> <li>• IP アドレスを検出</li> <li>• なし*</li> </ul>
時差	デフォルトの時差を指定する方法を選択します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域*</li> <li>• GM からのオフセット</li> <li>• 時差ファイル</li> </ul>
ルートパスワード	システム用のルートパスワードを選択します。	

---

# プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定

---

**注** – この手順を実行する前に、サービスプロセッサをセットアップする必要があります。準備が完了していない場合は、[第 2 章](#)を参照してください。

---

設定時は、「[インストールのためのワークシート](#)」(32 ページ) で収集した情報を使用します。

サーバーモジュール ILOM を設定したあと、サービスプロセッサによりシステムコンソールに接続して、プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステム (OS) を設定できます。

## ▼ プリインストールされている Solaris 10 OS を設定する

[「サーバーモジュール ILOM への接続」](#) (16 ページ) の説明に従って、シリアル端末または Ethernet を使用してサービスプロセッサに接続することができます。

シリアル端末を使用してサービスプロセッサに接続する場合は、次のいずれかの方法を使用します。

- シリアルポート出力をキャプチャするには、クライアントで動作する Solaris OS で次のように入力します。

```
$tip -9600 /dev/ttya
```

- Windows OS を実行しているクライアントでは、Hyperterminal などのプログラムを起動します。
- Linux OS を実行しているクライアントでは、Linux のディストリビューションに含まれるテキストベースのシリアル通信プログラム (Minicom など) を起動します。詳細は、Linux ディストリビューションに含まれるマニュアルページを参照してください。

1. [「サーバーモジュール ILOM への接続」](#) (16 ページ) のいずれかの方法により、サービスプロセッサに接続してログインします。

サーバーモジュール ILOM C: LI のプロンプトが表示されます。

->

2. サービスプロセッサの通信プロパティがデフォルトに設定されていることを確認します。次に例を示します。



```
-> show /SP/serial/host
/SP/serial/host
Targets:

Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  pendingspeed = 9600
  speed = 9600

Commands:
  cd
  show
```

3. speed (速度) が 9600 以外の場合は、次のコマンドを入力して変更します。

```
-> set /SP/serial/host pendingspeed=9600 commitpending=true
```

4. 次のコマンドを入力して、シリアルコンソールモードを開始します。

```
-> start /SP/console
```

管理者権限のあるアカウントだけが、SP の設定を実行できます。

5. プロンプトが表示されたら、「y」と入力します。

```
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
```



---

**注意** – 導電性のある物を使用してくぼんだ電源ボタンを押すと、感電や装置破損の危険性があります。

---

6. 前面パネルにあるくぼんだ電源ボタンを非導電性の先の尖ったもので押して、サーバーモジュールの電源を入れます。

OS のブート時に、POST メッセージが画面に表示されます。

7. Solaris 10 プリインストール画面の指示に従って操作します。

8. 指示に従ってシステムとネットワークの情報を入力します。このとき、「[インストールのためのワークシート](#)」(32 ページ) で収集した情報を使用します。

表示される画面は、ネットワーク情報をサーバーに割り当てるために選択した方法 (DHCP または静的 IP アドレス) によって異なります。

システム構成情報を入力すると、サーバーのブート処理が完了し、Solaris のログインプロンプトが表示されます。

## ▼ コンソールの出力のビデオポートへのリダイレクト (省略可)

サーバーモジュールのコンソールは自動的にシリアルポートに送られます。X86 ベースまたは X64 ベースシステムの Solaris OS には、オープンソースの GRUB ブートローダがデフォルトで付属しています。ブートローダは、システムの電源を入れてから最初に実行されるソフトウェアプログラムです。

1. シャーシの SER MGT ポートまたはドングルケーブルのシリアルポートを使用して、ホストサーバーのシリアルポートとクライアントシステムのビデオポートをケーブルで接続します。
2. GRUB メニューから、次に示すように、インストールプロセスを VGA 接続 (ビデオポート) に表示するオプションを選択できます。

```
*****  
* Solaris 10 5/08 s10x_u5wos_10 X86 - Serial Port (ttya) *  
* Solaris 10 5/08 s10x_u5wos_10 X86 - Graphics Adapter *  
* Solaris failsafe *  
* *  
* *  
* *  
* *  
* *  
*****
```

出力をビデオポートに表示するには、次のオプションを選択します。

```
Solaris 10 5/08 s10x_u5wos_10 X86 - Graphics Adapter
```

---

# Solaris 10 オペレーティングシステムのユーザー情報

このセクションでは、Solaris 10 オペレーティングシステムに関する情報の参照先を示します。

## Solaris 10 ユーザーマニュアル

次の Web サイトで、Solaris 10 OS の各種ユーザーマニュアルを参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

## Solaris 10 OS のトレーニング

Sun は、お客様のスケジュールと学習スタイルに応じて柔軟なトレーニングオプションを提供しています。講師によるクラス、Web ベースのオンラインのクラス、CD-ROM のクラス、ライブ仮想クラスなどのオプションがあります。Solaris 10 のトレーニングおよび認定オプションの一覧については、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/training/catalog/solaris10.html>

---

# Solaris インストールプログラムの使用

Solaris インストールプログラムの使用方法が記載されたドキュメントは、次の Web サイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/>

SPARC ベースではなく、x86 ベースシステムの手順に従ってください。詳細は、インストールしたバージョンの Solaris 10 オペレーティングシステムの「Solaris 10 Release and Installation Collection (Solaris 10 リリースおよびインストールコレクション)」を参照してください。このドキュメントは次のサイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

プリインストールされた Solaris OS の設定が完了すると、Solaris インストールプログラムでシステムがリブートされ、ログイン画面が表示されます。システムにプリロードされている次のソフトウェアを示すメッセージが表示されます。

- Sun Java™ Enterprise System (Java ES)
- Sun Studio™ 11

# Sun Java Enterprise System

Sun Java Enterprise System (Java ES) は、ネットワークまたはインターネット環境を通じて配布される、企業規模のアプリケーションをサポートするために必要なサービスを構築する、一連のソフトウェアコンポーネントです。

## Sun Studio 11

Sun Studio 11 には、SPARC および x86/x64 プラットフォームの Solaris OS 向けの、高性能で最適化された C、C++、および Fortran コンパイラが搭載されています。また、アプリケーションパフォーマンス分析やソース言語が異なるアプリケーションのデバッグを行うためのコマンドラインツールや、NetBeans™ ベースの Integrated Development Environment (IDE) も搭載されています。これらのツールにより、gcc、Visual C++、C99、OpenMP、および Fortran 2003 との互換性があるマルチプラットフォームに対応できます。

---

## Solaris オペレーティングシステムの再インストール

Solaris OS をインストールしたり別のバージョンの Solaris OS をインストールするには、DVD や ネットワーク (Jumpstart Enterprise Toolkit (JET)) を使用するなど、複数の方法があります。

詳細な手順については、『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』(820-1893) を参照してください。『Sun Blade X6440 Server Module Operating System Installation Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュールオペレーティングシステムインストールガイド)』(820-3962) も参照してください。

## ソフトウェアのダウンロード

ソフトウェアを再インストールする必要がある場合は、次のサイトからダウンロードできます。

- Solaris 10 オペレーティングシステムをダウンロードする場合  
<http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp>
- パッチをダウンロードする場合  
<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=home>

# 索引

---

## C

CMM ILOM 14  
CMM の定義 2

## D

Dynamic Host Control Protocol (DHCP) 26

## G

GRUB 38

## I

Integrated Lights Out Manager (ILOM)

CLI

SSH ログイン 21

SSH ログアウト 21

カスタマイズ 30

概要 13

シリアル接続 16

定義 2

IP アドレス

BIOS セットアップユーティリティによる設  
定 24

DHCP による設定 26

## L

LED

位置特定 8

電源 8

取り外し可能 7, 8, 9

保守要求 8

## M

MAC アドレス 17, 26

SP 32

サーバーモジュール 32

## P

PCI EM MAC アドレス 32

## R

root パスワード 22

## S

Secure Shell (SSH)

CLI ログアウト 21

CLI ログイン 21

Solaris 10 オペレーティングシステム

設定 31

前提条件 32

ダウンロード 40

## U

USB デバイスへの接続 20

## あ

インストール、オペレーティングシステム 30

オペレーティングシステム

プリインストールされた OS

Solaris OS の設定 31

## か

- 概要、設置 3
- コマンドラインインタフェース (CLI)
  - SSH ログアウト 21
  - SSH ログイン 21
- コンパクトフラッシュカード
  - 定義 2
  - 取り付け 4
  - 取り外し 10

## さ

- サーバーモジュール
  - ILOM 14
  - SP IP アドレスによる接続 36
  - 前面パネル 8
  - 挿入 5
  - 電源切断 9
  - 電源投入 9
  - ビデオへのコンソールのリダイレクト 38
  - ブート 9
- サーバーモジュール ILOM
  - Ethernet ポートによる接続 21
  - シャーシのシリアルコネクタを使った接続 16
  - ドングルケーブルによる接続 20
- サーバーモジュールの定義 2
- サービスプロセッサ (SP)
  - MAC アドレス 32
- シャーシ管理モジュール→「CMM」を参照
- シャーシの定義 2
- シリアルポートコネクタ 20
- 事前設定された ILOM 管理アカウント 14
- スタンバイ電源モード、サーバーのモード 7
- 製品アップデート x
- 設置の概要 3

## た

- デフォルトの root パスワード 22
- 電源 LED 8
- 取り付け、コンパクトフラッシュカード 4
- 取り外し可能 LED 7,9
- ドライバアップデート x

## は

- パスワード、root 22
- ビデオポートへのリダイレクト 38
- ファームウェアアップデート x

## や

- 用語の定義 2,13,14

## ら

- ログアウト
  - CLI および SSH 21
- ログイン
  - CLI および SSH 21

## わ

- サービスプロセッサ (SP)
  - 定義 2